

## 全労金2014春季生活闘争ニュース第14号

《合意速報No.2》

### 北海道労組が金庫との交渉を妥結しました！

北海道労組は、3月25日、金庫との団体交渉において、交渉の妥結を確認しました。内容は、①職員・準職員・契約職員の賃金は、給与規程に基づく定期昇給を実施（要求通り）、②正職員の一時金は、4.7ヵ月（要求通り）、③準職員の一時金は、2.0ヵ月（要求通り）、④契約職員の一時金は、1.2ヵ月（要求通り）、⑤準職員・契約職員の退職金は、継続協議扱いとする。なお、業態全体として雇用形態への対応議論が開始されていること、また、金庫としても人事制度全般の見直しを検討している段階であり、これらを踏まえ検討する、⑥「年次有給休暇積立制度」は、職員・準職員・契約職員を対象に、2014年度上期中に新設する（要求通り）。なお、制度の詳細設計は、労使協議の上、確認する、とするものです。

団体交渉で金庫からは、「この間の交渉を踏まえ、基本賃金・年間一時金については要求通りの回答とする。退職金制度は、業態全体として多様化する雇用形態への対応議論が開始されているところであり、当庫としても人事制度全般の見直しを検討している段階であることから、これらを踏まえた上で検討したい。年次有給休暇積立制度は、制度にかかる詳細設計について労使協議の上、上期中を目途に新設したい。労使関係は、お互いの立場を尊重しつつ、具体的なテーマについて、納得度の高い合意点を探ることが重要であると折につけ表明してきた。取り巻く環境・情勢についての共通の理解を広げ、引き続き、率直な意見交換をお願いしたい」等の見解が表明されました。

榎田闘争委員長は、「要求書提出以降、誠意ある交渉を積み上げていただいた。年間一時金は、全組合員の奮闘に報いるべく、要求通りの回答となった。また、退職金制度・年次有給休暇積立制度は、要求に拘り交渉を重ねた結果、一定に単組の納得のいく、組合員に説明のできる回答であると考えている。本団体交渉における妥結により、次年度の労働条件が整った。以降は、今次中計で掲げた事業計画の達成に向け、全組合員が全力で頑張ることを表明したい。単組は、本日以降、人事・賃金制度全般の改定議論に向け、態勢を整えた上で準備を進める」等を表明しました。

なお、単組は、①金庫からは、厳しい経営環境に言及しながらも、この間のアール・ワンシステム移行作業に対する奮闘を含め、「全ての労金労働者」を念頭においた真摯な姿勢が示された、②年間一時金は、労働組合の主張を十分に踏まえた回答となった、③退職金は、業態全体の議論や人事・賃金制度全般の見直し協議とあわせて、問題点・改善点の確認を進めながら検討するとした見解が示された、④継続協議扱いとなった内容について

は、協議に向けた金庫のスタンスや協議スケジュールが示された、等から交渉の妥結を判断しました。

また、継続協議に向けては、①労使が共に知恵を出し合い、正職員・臨時職員の垣根を超え、すべての労金労働者がさらなる働きがいを実感できる協議としなければならない、②金庫を取り巻く環境は厳しさを増すが、アール・ワンシステムの安定稼働や中期経営計画（2012年度～2014年度）の最終年度における各種目標を達成するためには、「すべての労金労働者」の努力・奮闘は欠かせない、③労働条件を改善させる観点からも、「すべての労金労働者」が力と心をあわせ、業務に邁進するとともに、各種課題に対し、すべての組合員が一丸となって乗り越えていくことを確認し合い、今後も公正処遇を実現する観点も含め精力的に協議する、等の意志を確認しています。

＊合意単組：2単組（3月25日午前11時40分現在）

静岡・北海道

以 上